インターアクティブ セッションB-2

人間工学はなぜ役に立たないのか B. 情報機器と人間工学《ワープロ》 ーワープロの設計に人間工学は役立つかー

山本 敏雄（株式会社 リコー）

Ergonomics. Is it useful for word-processor engineers?
T. Yamamoto (Ricoh Co., Ltd.)

ワープロの設計に何故人間工学が役に立たないかを、設計者（ソフト担当5名、ハード担当5名）へのアンケート調査を基に考察する。アンケート調査の質問の主旨は次の通りである。

- (1)他の学問と較べた人間工学の知名度。
- (2)人間工学は使いやすさに役立つ学問か。
- (3)実際に人間工学は役立っているか。
- (4)設計者は何に影響を受けて設計するか。
- (5)人間工学の情報を何処から得ているか。

また、その情報は使えるか。

- (6)人間工学(学会)に何を期待するか。

アンケート調査の結果

- (1)人間工学の知名度は決して低くはない。
- (2)人間工学はワープロの使いやすさに関係あると思われるが、
- (3)参考にしている者はやや少ない。
- (4)実際の設計仕様を決める時に影響を受けるのは、社内関係区とユーザーの意見である。
- (5)人間工学の情報は雑誌・新聞や社内関連区

の人から得ており、学会から直接得ている者はいない。また、得られた情報は社内の関連区の人に聞くか、自分で解釈し直さないと使えないものが多い。

- (6)要望のベスト4は以下の通りである。

- ①商品開発にすぐ使える形で情報を提示して欲しい。
- ②企業の人材を教育するシステムを作って欲しい。
- ③商品開発に役立つことを広くPRして欲しい。
- ④使いやすさの評価だけでなく、使いやすくするといくら儲かるかの評価手法の研究もして欲しい。

設計者が人間工学に期待している、設計段階で参考となる具体的な情報（ガイドラインなど）の提示、設計者への教育、人間工学のPRなどを地道に行なうことが人間工学の価値を更に上げることになるのではないかな。

〔図1〕 設計者の人間工学に対する印象

〔図2〕 設計者の人間工学への要望項目